

平成23年行政事業レビューシート

(文部科学省)

<b>事業名</b>	分子イメージング研究戦略推進プログラム		<b>担当部局庁</b>	研究振興局		<b>作成責任者</b>		
<b>事業開始・終了(予定)年度</b>	平成22年度～		<b>担当課室</b>	研究振興戦略官付		研究振興戦略官 岡村 直子		
<b>会計区分</b>	一般会計		<b>施策名</b>	X-1 ライフサイエンス分野の研究開発の重点的推進				
<b>根拠法令 (具体的な 条項も記載)</b>	-		<b>関係する計画、 通知等</b>	第3期科学技術基本計画(平成18年3月閣議決定) 健康研究推進戦略(平成21年7月健康研究推進会議決定)				
<b>事業の目的 (目指す姿を 簡潔に。3行程 度以内)</b>	生体内分子の機能や投与薬物の動態などを生物が生きたままの状態画像化する分子イメージング技術を活用し、創薬プロセスの革新及び疾患診断の高度化等を図る。							
<b>事業概要 (5行程度以 内。別添可)</b>	分子イメージング技術を医療へ応用すべく、創薬候補物質探索拠点・PET疾患診断研究拠点と、大学・病院・企業等の連携により構成される研究体制を構築し、技術の実証に向けた共同研究開発を実施する。 ①難治がん診断治療分野、②認知症診断治療分野において、臨床応用に向けたPOC(Proof of concept:基礎研究で得られた治療学的コンセプトの証拠)を取得することを目標とする。							
<b>実施方法</b>	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 業務委託等 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他							
<b>予算額・ 執行額 (単位:百万円)</b>			20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求	
	予 算 の 状 況	当初予算	-	-	530	500	500	
		補正予算	-	-	-	-	-	
		繰越し等	-	-	-	-	-	
		計	-	-	530	500	500	
	執行額		-	-	529	-	-	
執行率(%)		-	-	99.8%	-	-		
<b>成果目標及び 成果実績 (アウトカム)</b>	成果指標			単位	20年度	21年度	22年度	目標値 (26年度)
	臨床応用に向けたPOCの取得数(累積)		成果実績	件	-	-	0	8
			達成度	%	-	-	0	-
<b>活動指標及び 活動実績 (アウトプット)</b>	活動指標			単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込
	発表論文数(累積)		活動実績 (当初見込み)	本	-	-	81	-
						( - )	( 80 )	
<b>単位当たり コスト</b>	論文1本あたりのコスト 6(百万円/本)		算出根拠	単位当たりコスト = H22までの共同研究に係る費用(497百万円) / 発表論文数(81本)				
<b>平成 23 ・ 24 年度 予算 内訳</b>	<b>費目</b>	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由				
	科学技術試験研究委託費	498.4百万円	498.4百万円					
	諸謝金	0.3百万円	0.3百万円					
	職員旅費	0.3百万円	0.3百万円					
	委員等旅費	1百万円	1百万円					
	計	500百万円	500百万円					

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	—	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、費目・使途	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	—	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	○	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	<p>○平成23年度においては、創薬候補物質探索拠点及びPET疾患診断研究拠点が行う業務との更なる連携を図り、共用可能な物品の効率的な使用等を進め、経費縮減を図っている。引き続き、効率的なプログラムの推進に努めるべき。</p>		
予算監視・効率化チームの所見			
一部改善	<p>1. 事業評価の観点:この事業は、分子イメージング研究分野におけるオールジャパンでの研究体制の構築を目指す競争的資金である。</p> <p>2. 所見:この事業は、平成21年度レビュー等の指摘を踏まえ、23年度において予算の縮減を図るなど一定の見直しを図ったことは評価するものの、引き続き、事業の効果的・効率的な実施を目指し、事業の重点化、コスト縮減等に努めるべきである。また、「平成23年度科学・技術重要施策アクション・プラン」に沿って資金の使用ルール等の統一化及び簡素化・合理化を進めるなど、研究者にとって使いやすく、かつ、国費が有効に使われるような事業にしていくべきである。</p>		
	上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)		
<p>本プログラムでは、限られた予算で効率的・効果的に成果を引き出すため、研究対象を社会のニーズの高い「がん」、「認知症」分野へと絞り込み、事業を推進している。また、臨床試験機関の集約により必要経費の縮減を図り、平成24年度概算要求において1百万円を縮減。</p>			
補記 (過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			
<p>【事業仕分け】          &lt;事業番号/事業名&gt;          事業番号3-38 競争的資金(ライフサイエンス分野)          &lt;結果&gt;          予算要求の縮減(2割~1/3程度)          &lt;とりまとめコメント&gt;          分子イメージング研究戦略推進プログラム(第Ⅱ期)については、来年度予算計上は見送りが2名、予算要求の縮減が5名、そのうち半額程度の縮減が1名、1/3程度の縮減が2名、その他2割減が1名、1割減が1名、予算要求通りが2名であった。これも目標、計画をもっと明確にしてほしいというのがほぼ同じ評価であった。その他いろいろあったがそれが共通した見方であった。このため、2割~1/3程度の縮減としたい。</p>			

文部科学省  
529百万円

諸謝金等 0.3百万円 } を含む  
職員旅費 0.2百万円  
委員等旅費 0.6百万円

分子イメージング研究拠点・共同研究・人材育成実施機関を審査・選定し、マネジメントを実施

【公募・委託】

A:分子イメージング研究拠点  
:343百万円  
独立行政法人等(全2機関)

分子イメージング技術に関して、臨床での実証を目指した研究開発を実施 等

【公募・委託】

B:共同研究実施機関  
:154百万円  
大学等(全17機関)

分子イメージング研究拠点との共同研究の実施

【公募・委託】

C:人材育成実施機関  
:31百万円  
大学(全5機関)

分子イメージング技術に関して、拠点と連携した人材の育成

資金の流れ  
(資金の受け取り先が何を  
行っているか  
について補足  
する) (単  
位:百万円)

A.独立行政法人理化学研究所			E.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
人件費	業務担当職員、補助者	111			
業務実施費	消耗品(ガス類、実験動物類、理化学 器材類、試薬類、低温液体)	63			
	旅費(国内旅費、海外旅費)	5			
	学会参加費	1			
計		180	計		0
B.大阪府成人病センター			F.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
設備備品費	共焦点顕微鏡	26			
計		26	計		0
C.岡山大学			G.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
業務実施費	会議開催費(シンポジウム会場借料 他)	3			
	消耗品(ガラス器具類、培地類、実験 動物関係、試薬類)	2			
	旅費(国内旅費、外国人招へい旅費)	1			
	諸謝金(シンポジウム招へい)	1			
	印刷製本費、雑役務	1			
計		8	計		0
D.			H.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途  
 (「資金の流れ」  
 においてブロックごとに最大の  
 金額が支出されている者について  
 記載する。費目と使途の双方  
 で実情が分かるように記載)

## 支出先上位10者リスト

### A. 分子イメージング研究拠点

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	独立行政法人理化学研究所	創薬候補物質探索拠点として、共同研究機関と連携し、臨床での実証を目指した研究開発を実施	180	企画競争	-
2	独立行政法人放射線医学総合研究所	PET疾患診断研究拠点として、共同研究機関と連携し、臨床での実証を目指した研究開発を実施	163	企画競争	-

※)「分子イメージング研究プログラム」(第I期:平成17~21年度)開始の際に公募を実施。第I期プログラムにおいて構築した研究拠点を、本プログラムにおいても拠点として活用するため引き続き事業を委託。

### B. 共同研究実施機関

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	大阪府立成人病センター	新しい細胞塊培養によるがん難治性部位の探索	26	企画競争	-
2	国立がん研究センター	抗がん抗体の適合性評価のための分子イメージング臨床研究 等	23	企画競争	-
3	東北大学	特異的プローブによるタウおよびAβ蓄積メカニズムの解明	18	企画競争	-
4	独立行政法人 理化学研究所	Aβ代謝・蓄積と炎症反応の相互作用の解明	16	企画競争	-
5	独立行政法人科学技術振興機構	科学技術振興による研究開発の推進に関する支援業務	15	企画競争	-
6	財団法人先端医療振興財団	認知症用の炎症PETプローブの臨床開発	12	企画競争	-
7	京都大学	分子イメージングによるタウ凝集阻害薬開発	10	企画競争	-
8	愛媛大学	がん幹細胞を標的としたがん根絶療法の創出	8	企画競争	-
9	福井大学	難治性がん治療に向けた機能画像法の開発	6	企画競争	-
10	大阪市立大学	リン酸化タウの分子イメージングに関する研究およびタウリン酸化酵素Dyrk1a阻害剤のマイクロドーズ臨床試験	5	企画競争	-

### C. 人材育成実施機関

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	岡山大学	岡山分子イメージング高度専門人材育成事業	8	企画競争	-
1	浜松医科大学	小動物から霊長類までのPET研究人材育成	8	企画競争	-
3	大阪大学	医薬理工連携によるPET教育研究拠点形成	5	企画競争	-
3	東北大学	連携大学院による組織融合的研究教育の推進	5	企画競争	-
3	北海道大学	医薬工連携を活かしたPET専門家人材育成拠点	5	企画競争	-